

平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	いちご主要品種における萎黄病耐病性の品種間差異		
[要約] 本県で主要ないちご品種の萎黄病耐病性を比較したところ、四季成り性品種では、耐病性が強い順に「エッチェス-138」>「なつあかり」>「デコルージュ」であった。一季成り性品種については、耐病性が強い順に「紅ほっぺ」>「さちのか」>「とちおとめ」であった。					
キーワード	いちご	萎黄病	耐病性	環境部	病理昆虫研究室

1 背景とねらい

イチゴ萎黄病は、いちごの最重要病害のひとつで、産地移動の多くは、本病の多発によって起きる事例が多い。近年、研究機関・種苗会社で、四季成り性いちご品種が開発され、広く県内で試作的に栽培されている。また、一季成り性いちごにおいても新たな品種が導入されつつあり、その一部で、萎黄病の発生が確認されており、早急に対策を講じる必要がある。そこで、本県主要いちご品種の萎黄病耐病性を比較し、品種選定の際の参考とする。

2 成果の内容

- (1) 本県で主要な四季成り性品種の萎黄病耐病性は以下の通りである（図1）。
 - 「エッチェス-138」：発病はみられるが、病勢の進展は緩慢で、今回試験した四季成り性品種の中では比較的耐病性が強い。
 - 「デコルージュ」：発病後に急激な病勢進展がみられる。
 - 「なつあかり」：萎黄病耐病性は、「エッチェス-138」に劣り、「デコルージュ」にやや勝る程度である。
- (2) 本県で主要な一季成り性品種の萎黄病耐病性は以下の通りである（図2）。
 - 「紅ほっぺ」：発病が比較的少なく、病勢の進展は緩慢で、今回試験した一季成り性品種の中では比較的耐病性が強い。
 - 「とちおとめ」：発病後に急激な病勢進展がみられる。
 - 「さちのか」：萎黄病耐病性は、「紅ほっぺ」に劣り、「とちおとめ」にやや勝る程度である。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 四季成り性品種の「エッチェス-138」、一季成り性品種の「紅ほっぺ」は萎黄病耐病性が比較的強いと考えられるが、菌密度が高い場合には発病する可能性があるため、発病圃場では必ず土壌消毒を実施してから定植する。
- (2) 萎黄病の耐病性に関わらず、健苗育成に努め、無病苗を定植する。
- (3) 一季成り性品種については、本来の作期とは異なる時期の試験である点に注意が必要である。

4 成果の活用方法等

- (1)適用地帯又は対象者等 県内全域
- (2)期待する活用効果 いちご品種選定の際に参考となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H20-21)いちご萎黄病の耕種的防除技術の開発(H20～22、国庫補助)

6 研究担当者

岩館 康哉

7 参考資料・文献

- (1) 大畑ら編(1995),作物病原菌研究技法の基礎,pp.17-18.

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

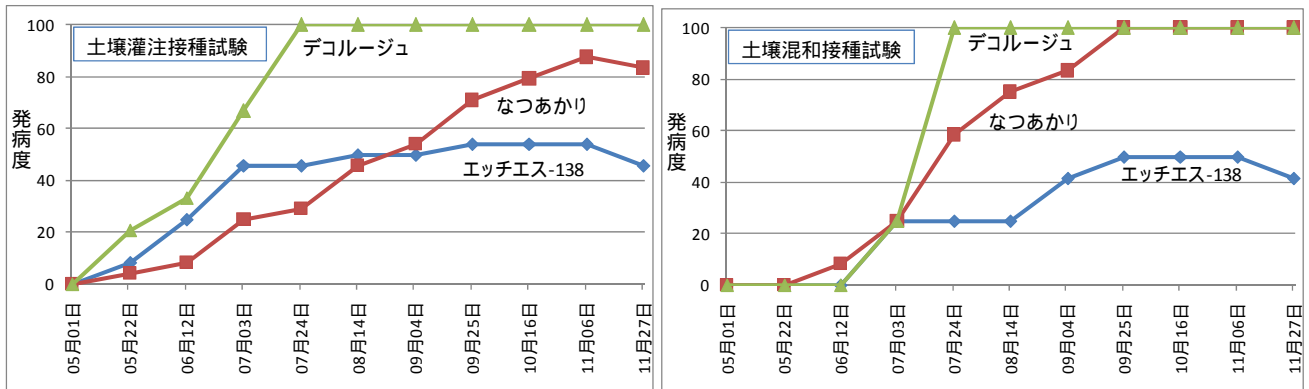


図1 県内主要四季成り性品種の萎黄病耐病性(2009)
(左：土壌灌注接種試験、右：土壌混和接種試験)

摘要)今回比較した3品種の萎黄病耐病性は、耐病性が強い順に「エッチェス-138」>「なつあかり」>「デコルージュ」である。「デコルージュ」、「なつあかり」は、実用的な耐病性はない。

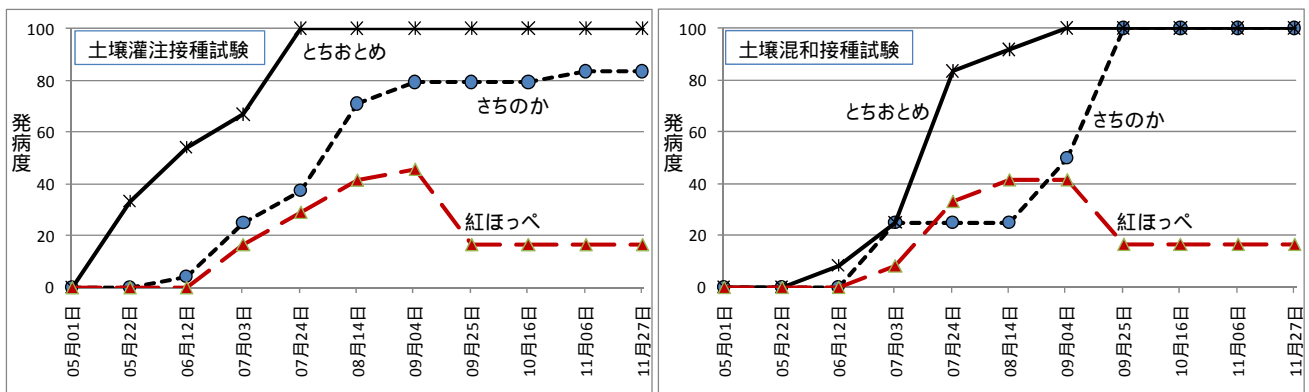


図2 県内主要一季成り性品種の萎黄病耐病性(2009)
(左：土壌灌注接種試験、右：土壌混和接種試験)

摘要)今回比較した3品種の萎黄病耐病性は、耐病性が強い順に「紅ほっぺ」>「さちのか」>「とちおとめ」である。「紅ほっぺ」は、発病の進展が緩慢であり耐病性が強い。

【試験概要】

○土壌灌注接種試験

イチゴ定植後に、イチゴ萎黄病菌 IbFof08001-1 (茨城県農業総合センター園芸研究所より分譲) を 25℃、6 日間振盪培養して得られた分生孢子懸濁液を 10 倍希釈し、株当たり 100ml を土壌灌注し、発病を促した。1 区 3 株、2 反復で実施した。

○土壌混和接種試験

イチゴ定植時に、イチゴ萎黄病菌 IbFof08001-1 をフスマ培地で 27℃、2 週間培養した汚染源を 250g/m² 土壌混和し、発病を促した。

1 区 3 株、反復無しで実施した。

○いずれの試験もドレインベッドを用いたガラス温室内での試験である。また、花芽・ランナーは随時かき取った。

○発病調査

調査は、定植日から 3 週間おきに下記の発病程度別に調査し、発病度を算出した。

指数 0：発病を認めない 1：下葉 1~2 枚または心葉の黄化・奇形 2：下葉 1~2 枚または心葉の萎凋
3：株全体の萎凋 4：株の枯死

発病度 = Σ (発病指数 × 発病指数別株数) × 100 / (最大発病指数 × 全調査株数)